

第4章 研修・広報等

1. 職員研修

(1) 職場研修

ア 所外講師（客員研究員を含む）による講演

開催年月日	研修テーマ	講師
平成 28 年 12 月 15 日	高血圧と生活習慣	産業医 西川 恵子

イ 所内講師による講演

開催年月日	研修テーマ	講師
平成 29 年 3 月 23 日	衛研のこれから	副所長 森 千恵子
平成 29 年 3 月 23 日	公務員倫理について	企画総務部 部長 志賀 利美
平成 29 年 3 月 23 日	研究に係る倫理研修 －研究費の不正使用、研究活動における不正行為の 防止について－	企画総務部企画情報グループ 主査（企画調整） 久保 浩史

(2) 研究職員国内研修事業

研究開発能力育成事業〔研究技術取得等部門〕

研修期間	研修名 【派遣先】	派遣職員
平成 28 年 11 月 18 日 ～11 月 20 日 (3 日間)	残留農薬分析セミナー2016 年度 【日本農薬学会】	食品科学部食品安全グループ 研究職員 岡部 亮
<p>【概要】当所では、食品中の残留農薬等の試験検査・調査研究を通じて、道内に流通する食品の安全性確保に努めている。これらの業務に加えて、突発的な食品の事件・事故等に迅速に対応するためには、残留農薬分析に関する知識の蓄積及び最新情報を得ることが重要であることから、本セミナーに参加した。</p> <p>【成果】今回のセミナーに参加し、残留農薬試験に関する技法、固相抽出用ミニカラムの特性及び使用方法等を学んだ。習得した知識及び技術は、新たな残留農薬試験法の開発や事件・事故対応に活用するほか、道立保健所への技術指導に役立て、道民の食の安心・安全に寄与したい。</p>		
研修期間	研修名 【派遣先】	派遣職員
平成 28 年 11 月 27 日 ～12 月 1 日 (5 日間)	国立医薬品食品衛生研究所における後発医薬品の 品質確保に関する技術研修及び業務見学 【国立医薬品食品衛生研究所】	生活科学部薬品安全グループ 研究職員 高橋 正幸
<p>【概要】厚生労働省による「後発医薬品品質確保対策事業」では、後発医薬品中の主成分を定量するための溶出試験法に基づく分析等を行っている。本研修では、試験法に関する基礎的な知識や各種分析機器の操作方法をはじめとする分析技術について学んだ。また、研修先の国立医薬品食品衛生研究所薬品部及び生薬部の業務について理解を深めた。</p> <p>【成果】後発医薬品の品質確保に関する技術研修により、今後も継続される後発医薬品品質確保対策事業に対する試験法の理解及び技術レベルがより一層向上したと考える。さらに、業務見学を行ったことで、医薬品全般の品質確保に関する国内外での最新の動向や分析技術等の知見を得ることができた。これらの成果を今後行う試験・検査、調査研究に活用する予定である。</p>		

研修期間	研修名 【派遣先】	派遣職員
平成28年12月5日 ～12月9日 (5日間)	エキノコックス媒介動物のELISAを用いた糞便内 抗原検出法の技術取得 【宮崎大学農学部獣医学科】	感染症部医動物グループ 主査(媒介動物) 孝口 裕一
<p>【概要】国内外において、糞便内の虫体由来抗原をサンドウィッチELISAにより検出する方法がPCR法と共に媒介動物のエキノコックス感染の判定に一般的に用いられている。今回、モノクローナル抗体等の材料を所管する宮崎大学・獣医学科・獣医寄生虫病学研究室において、抗血清からのIgG抗体の精製、EmA9の標識ならびにELISAを行うための条件検討を行い、本検出法の周辺技術を取得した。</p> <p>【成果】今回習得した技術は、糞便を用いて終宿主のエキノコックス感染を調査する手法である。イヌにおいては現行の虫卵検査とPCR法に加え、本技術により多検体を簡便に検査することが出来、さらに陽性・陰性を判定するのに必要な情報量も増し、検査精度の向上が図れる。キツネの死体解剖検査により行われる現行の道内でのエキノコックス媒介動物調査において、本技術は新しい媒介動物調査・対策に活用されることが期待される。</p>		

2. 研修生受入

(1) 大学・企業・団体等

年月日	研修課題名	受講者	人数	担当部等
28.10.17 ～10.18	社会医学実習 ー北海道立衛生研究所における環境衛生・生活衛生業務ー	国立大学法人 北海道大学医学部 4年生	8	食品科学部 感染症部
28.10.24 ～10.28	水試料からのクリプトスポリジウム・オーシストの検出方法	苫小牧市水道事業 (技師)	1	生活科学部 (生活衛生G)

(2) 保健所等

年月日	研修課題名	受講者	人数	担当部等
28.6.20 ～6.22	平成28年度レジオネラ属菌検査に係る技術研修会 (第一グループ)	道立保健所	5	感染症部 (細菌G)
28.6.27 ～6.29	〃 (第二グループ) (主催：保健福祉部地域保健課、講師依頼)	(試験検査担当者)	6	
28.9.7 ～9.9	平成28年度食肉・食鳥肉微生物研修会 敗血症の検査法に係る講義と実習 (主催：保健福祉部食品衛生課、講師依頼)	道内食肉衛生検査所 (と畜検査員及び 食鳥検査員)	13	感染症部 (細菌G)
28.12.8 ～12.9	平成28年度食品分析研修 着色料(タール色素)試験法について(実習及び講義) (主催：保健福祉部食品衛生課、講師依頼)	道立保健所 (試験検査担当者)	10	食品科学部
29.1.31 ～2.3	平成28年度保健所微生物等検査業務担当者研修会 ① <i>Escherichia albertii</i> 検査法について(実習及び講義) ② <i>Yersinia enterocolitica</i> 検査法について(実習及び講義) ③セレウス食中毒発生時におけるセレウリド検査について(講義) ④衛研におけるTaKaRa ノロウイルスキットの検証結果(講義) ⑤今年度のノロウイルスの流行遺伝子型について(講義) ⑥バイオセーフティ研修(病原体輸送について)(講義) (主催：保健福祉部食品衛生課、講師依頼)	道立保健所 (試験検査担当者)	13	食品科学部 (食品安全G) 感染症部 (細菌G、ウイルスG)

注：保健福祉部健康安全局各課主催研修は、講師依頼であるが、当所を会場に行っているため、研修扱いとして併記

3. 視察及び見学

年月日	所属・団体名等	人数	担当部等
28. 6. 6	タイ国立タマサート大学総長、公衆衛生学部教員 (学校法人 酪農学園大学獣医学群)	5	企画総務部 (企画情報G) 生活科学部、食品科学部、感染症部
28. 6. 9	JICA 課題別研修「獣医技術研究」コース研修員 (公益社団法人 畜産技術協会)	11	感染症部
28. 7. 14	国立大学法人 北海道大学大学院保健科学院修士1年生	6	感染症部 (医動物G)
28. 7. 14	国立大学法人 北海道大学獣医学部4年生	46	感染症部
28. 8. 4	京都府議会 防災・危機管理対策特別委員	15	企画総務部 (総務G)、感染症部
28. 8. 29	陸上自衛隊中央即応集団特殊武器衛生隊	39	企画総務部 (企画情報G)、感染症部
28. 10. 7	国立大学法人 北海道大学薬学部2年生 (A班)	40	生活科学部、食品科学部、感染症部
28. 10. 11	” (B班)	40	
28. 10. 21	国立大学法人 北海道大学医学部4年生	6	企画総務部 (企画情報G) 生活科学部、食品科学部、感染症部
28. 11. 18	学校法人 自治医科大学医学部5年生	3	企画総務部 (企画情報G) 生活科学部、食品科学部、感染症部

4. 広報活動等

当所の研究成果や公衆衛生に関する情報などを、道民に紹介するため、次の事業に参加、開催した。また、ホームページにて各種情報の発信を行った。

(1) 2016 サイエンスパーク

- ・ 日 時 平成28年7月28日
- ・ 主 催 北海道、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
- ・ 場 所 札幌駅前通地下歩行空間及び道庁赤れんが庁舎
- ・ 参加機関 63機関
- ・ 一般参加者 2,500名
- ・ 内 容 (当所の担当分)
展示コーナー「サイエンス夏まつり」(科学に関するクイズ、対象：小学校全学年 約500名)

(2) 北海道立衛生研究所市民講座・パネル展

- ・ 日 時 平成28年6月30日～7月1日、11月21～22日
- ・ 場 所 北海道庁道政広報コーナー (特設展示場及び交流広場)
- ・ 一般参加者 1回目204名、2回目234名
- ・ 内 容
パネル展示 (公衆衛生に関する啓発及び業務紹介)

(3) ホームページの発信

発信内容等の詳細については、各グループ「業務」に記載

- ・ 北海道感染症情報 (企画総務部企画情報G)
- ・ 花粉飛散情報調査 (生活科学部薬品安全G)
- ・ 北海道 (札幌市) における放射能濃度の測定結果 (生活科学部生活衛生G、企画総務部企画情報G)
- ・ 刊行物、研究評価等、その他の情報 (関係各G)

5. 研究成果

平成 28 年度に実施した研究課題等の成果は、北海道立衛生研究所報第 67 集（2017）（<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/>）のほか、学術誌等に掲載し公表している。

(1) 北海道立衛生研究所報第 67 集による公表

総説 1 編、調査報告 2 編、ノート 11 編、資料 9 編を掲載したほか、学術誌等で公表した発表論文等の標題や概要、学術誌名等を掲載した。

(2) 学術誌等による公表

発表論文 23 編、著書等 1 編、報告書等 12 編、学会発表 59 編

6. 所内発表会（平成 28 年度 北海道立衛生研究所調査研究発表会）

日 時 : 平成 29 年 3 月 2～3 日
場 所 : 北海道立衛生研究所講堂

○ : 発表者

1. 【受託研究】【一般試験研究】人獣共通感染症を含む細菌感染症検査技術向上に関する研究
—食肉検査における敗血症の細菌検査法—
○大野祐太、池田徹也（感染症部細菌G）
2. 【一般試験研究】人獣共通感染症を含む細菌感染症検査技術向上に関する研究
—2014～16年、北海道におけるヒト由来サルモネラの検出状況と薬剤感受性試験結果について—
○渡邊涼太、小川恵子、森本 洋（感染症部細菌G）
3. 【応募研究】迅速・網羅的病原体ゲノム解析法の開発及び感染症危機管理体制の構築に資する研究（H28～H30）
—次世代シーケンサーを用いたサルモネラと黄色ブドウ球菌の解析—
○池田徹也、大野祐太（感染症部細菌G）、黒田 誠（国立感染症研究所）
4. 【その他】2016年に収集した結核菌のVNTR型別結果の報告
○小川恵子、渡邊涼太、森本 洋（感染症部細菌G）
5. 【一般試験研究】吸血性節足動物におけるブニヤウイルス等の保有状況に関する研究
○駒込理佳（感染症部ウイルスG）、伊東拓也（感染症部医動物G）、三好正浩（感染症部ウイルスG）
6. 【応募研究へ】北海道におけるE型肝炎症例の増加について
○石田勢津子、吉澄志磨（感染症部ウイルスG）、松浦香織（旭川保健所）
7. 【一般試験研究】【外部資金活用研究】動物実験代替法を用いた北海道産二枚貝の麻痺性貝毒監視体制構築の検討
○上野健一、林 玲子（食品科学部食品保健G）、武田忠明（道総研中央水試）、渡邊龍一、鈴木敏之（水産機構中央水研）
8. 【一般試験研究】LC/MS/MSによる畜水産食品中の抗生物質等試験法の検討
—有機溶媒・水系溶媒を用いた抽出及び固相抽出法による精製について—
○藤井良昭、加賀岳朗、橋本諭、西村一彦（食品科学部食品保健G）
9. 【その他】道内における植物性自然毒による食中毒事例（平成 28 年）
○高橋正幸、藤本 啓、武内伸治、小島弘幸（生活科学部薬品安全G）
10. 【一般試験研究】危険ドラッグの効率的分析システム構築に関する研究（1）LC-QTOFを用いた化学分析法について
○武内伸治、高橋正幸、藤本 啓、小島弘幸（生活科学部薬品安全G）、佐藤正幸（企画総務部企画情報G）
11. 【一般試験研究】危険ドラッグの効率的分析システム構築に関する研究（2）薬物受容体を介する細胞発光検出法について
○小島弘幸、武内伸治（生活科学部薬品安全G）

12. 【外部資金活用研究】 化学物質による複雑な肝毒性を予測及び評価するためのインビトロ・インシリコ統合型システムの開発
○小島弘幸（生活科学部薬品安全G）、吉成浩一（静岡県立大学薬学部）
13. 【外部資金活用研究】 北海道における牛乳中の放射性物質の影響評価
○青柳直樹（生活科学部生活衛生G）、市橋大山（企画総務部企画情報G）
14. 【その他】 北海道内で湧出する硫黄泉について
○高野敬志、内野栄治（生活科学部生活衛生G）、大森賢司（北海道保健福祉部食品衛生課）
15. 【その他】 家庭用品中に含まれるトリブチル錫、トリフェニル錫の分析法の検討
○千葉真弘、大泉詩織（生活科学部生活衛生G）
16. 【その他】 当所で行ったシックハウス対策に係る調査研究
○小林 智（生活科学部）
17. 【一般試験研究】 食品中のアレルギー物質検査を補完するそば由来タンパク質検出法の構築について
○菅野陽平、青塚圭二、鈴木智宏（食品科学部食品安全G）、孝口裕一（感染症部医動物G）
18. 【その他】 デンプン中の農薬分析における抽出時の水浸漬操作の影響
○岡部 亮、柿本洋一郎、青柳光敏（食品科学部食品安全G）
19. 【その他】 固相ミニカラムを用いた食用タール色素試験法の検討
○久保田晶子、岡部亮、柿本洋一郎、青柳光敏（食品科学部食品安全G）
20. 【一般試験研究】 GC-MS/MS を用いた加工食品等の残留農薬分析法の妥当性評価について
○柿本洋一郎、岡部亮、久保田晶子、青柳光敏（食品科学部食品安全G）、千葉真弘（生活科学部生活衛生G）
21. 【受託試験研究】 GC-MS(/MS)を用いた水産物中ジクロベニル分析法の検討
○青柳光敏、岡部 亮、柿本洋一郎（食品科学部食品安全G）、根本 了（国立医薬品食品衛生研究所）
22. 【その他】 クロバエ科キンパツヒメクロバエ属の一種 *Pollenia pediculata* の発生事例
○伊東拓也（感染症部医動物G）
23. 【応募研究】 エゾシカの住肉胞子虫の終宿主動物探索
（厚生労働科学研究費－野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究－）
○八木欣平、入江隆夫（感染症部医動物G）、池田徹也（感染症部細菌G）、高井伸二（北里大学獣医学部）
24. 【応募研究】 エキノコックス症におけるイヌ対策の重要性について
（日本医療開発研究機構(AMED)研究費-新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業-）
○八木欣平、入江隆夫、孝口裕一、浦口宏二（感染症部医動物G）、森嶋康之（国立感染研）
25. 【応募研究】 糞便内のエキノコックス特異的 DNA 検出によるイヌの診断系の確立
○入江隆夫（感染症部医動物G）

7. 受賞

地方衛生研究所全国協議会関係

平成 28 年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部長表彰（平成 28 年 7 月 1 日、盛岡市）
生活科学部生活衛生グループ 主幹 横山 裕之

受賞者は平成10年4月以来、北海道立衛生研究所に17年間勤務し、環境衛生・感染症情報及び企画情報分野を担当し、試験検査・調査研究及び人材育成に多大な貢献をしてきた。最初に配属した放射線科学科においては環境放射能調査に従事し、北海道各地域における放射線量率の分布や環境放射能の実態について調査研究を実施し、放射能安全対策に貢献した。併せて、電磁界の健康影響について調査研究を行い、複数の論文及び学会発表をした。平成17年から8年間は、企画情報部門において感染症情報センターの業務及び広報啓発活動・情報発信業務に従事し、衛生研究所の業務を住民に分かり易く伝達することに尽力した。この間、Pandemic (H1N1) 2009インフルエンザや福島原発事故が発生し、住民とのリスクコミュニケーションに全力を尽くした。平成25年以降は、理化学部（H27.6からは生活科学部）主幹として、後進の育成に尽力し、衛生行政分野に大きな力となっている。

今回の受賞は、これらの功績が評価されたものである。